

EPSON
EXCEED YOUR VISION

2011年度(2012年3月期) 第2四半期 決算説明会

2011年10月28日

セイコーエプソン株式会社

©SEIKO EPSON CORPORATION 2011. All rights reserved.

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 本説明資料における表示方法

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 千円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

開示セグメントの変更について

【2011年度】

- ものづくり基盤の再構築・強化を迅速に実行することを狙いとして、「電子デバイス事業セグメント」と「精密機器事業セグメント」を統合し、「デバイス精密機器事業セグメント」とする
- 「中・小型液晶ディスプレイ」のオペレーション終結を受け、2011年度以降発生する損益については「その他」に集約

【ビジュアルプロダクツ事業部(10月1日組織変更)】

- 映像分野における事業領域の拡大を確実なものとするため、「映像機器事業(プロジェクター)」「情報関連機器セグメント」と「TFT(HTPS)事業」<デバイス精密機器セグメント>を統合し、「ビジュアルプロダクツ事業部」<情報関連機器セグメント>とする

* 本資料では、上記内容について、
2010年度実績値 ならびに2011年度実績値、予想数値の補正を行った上で説明

<過去に公表したセグメント損益について、同様の補正を行った表を最終ページに添付>

■ 開示セグメントの変更内容

1. 概要

2. 詳細

決算ハイライト（中間決算）



| (億円) | 2010年度 | | 2011年度 | | | | 増減額 / 増減率 | |
|-----------|------------|-------------|-------------|-------|-------------|-------|----------------|---------------|
| | 実績 | % | 7/29予想 | % | 実績 | % | 前期実績比 | 前回予想比 |
| 売上高 | 4,792 | - | 4,520 | - | 4,255 | - | -537 -11.2% | -264 -5.9% |
| 営業利益 | 146 | 3.1% | 70 | 1.5% | 67 | 1.6% | -78 -53.8% | -2 -3.2% |
| 経常利益 | 148 | 3.1% | 50 | 1.1% | 61 | 1.4% | -87 -58.6% | +11 +22.9% |
| 税引前利益 | 134 | 2.8% | △20 | -0.4% | 0 | 0.0% | -133 -99.3% | +20 - |
| 純利益 | 74 | 1.6% | △110 | -2.4% | △43 | -1.0% | -118 - | +66 - |
| EPS | 37.33 円 | | △55.06 円 | | △21.89 円 | | | |
| 換算 レート | USD | 88.95 円 | 81.00 円 | | 79.82 円 | | | |
| | EUR | 113.85 円 | 114.00 円 | | 113.80 円 | | | |

前回予想 第2四半期以降の予想前提レート
USD: 80.00円、EUR: 110.00円

4

■2011年度 中間決算の実績

- 売上高が前期比 537億円減収の 4,255億円、
営業利益は 78億円減益の 67億円、
純損失は 43億円。
- これは、主に、中・小型液晶ディスプレイ事業の終結に伴う売上高の影響と、
東日本大震災および為替のドル安などの影響。
- 7月29日に発表した前回予想に対しては、欧米を中心とした景気の減速や競争の
激化などにより売上高は未達だったが、全社をあげた収益改善への取り組みにより
営業利益は、ほぼ予想どおり。

2011年度業績予想



| (億円) | 2010年度 | | 2011年度 | | | | 増減額 / 増減率 | |
|-----------|------------|-------------|-------------|------|-------------|------|--|----------------|
| | 実績 | % | 7/29予想 | % | 今回予想 | % | 前期実績比 | 前回予想比 |
| 売上高 | 9,736 | - | 9,700 | - | 9,100 | - | -636 -6.5% | -600 -6.2% |
| 営業利益 | 327 | 3.4% | 430 | 4.4% | 330 | 3.6% | +2 +0.9% | -100 -23.3% |
| 経常利益 | 311 | 3.2% | 400 | 4.1% | 310 | 3.4% | -1 -0.6% | -90 -22.5% |
| 税引前利益 | 153 | 1.6% | 300 | 3.1% | 210 | 2.3% | +56 +36.5% | -90 -30.0% |
| 当期純利益 | 102 | 1.1% | 170 | 1.8% | 100 | 1.1% | -2 -2.3% | -70 -41.2% |
| EPS | 51.25 円 | | 85.09 円 | | 50.15 円 | | | |
| 換算 レート | USD | 85.72 円 | 80.00 円 | | 77.00 円 | | 今回予想 2011年度下期の予想前提レート USD: 75.00円 EUR: 105.00円 | |
| | EUR | 113.12 円 | 112.00 円 | | 109.00 円 | | | |

前回予想 第2四半期以降の予想前提レート
USD: 80.00円、EUR: 110.00円

5

■2011年度の業績予想

- 上期の実績、ならびに下期の景気減速や急激な円高の進行と競争の激化などを前提に、その対応策を織り込んだ各セグメントの見通しを踏まえ今回業績予想を見直し。
- 売上高は、前回予想を600億円下回る9,100億円、
営業利益は、前回予想を100億円下回る330億円、
当期純利益は、100億円に修正。
- 前提となる下期の為替レートは、USDドルは75円、ユーロは105円に変更。
- 今回の業績予想には、タイにおける洪水被害の影響は織り込んでいない。
エプソンの水晶デバイスの現地工場は被災していないが、サプライチェーン上の問題が発生する可能性があるため、引き続き状況を注視し必要な対応策を講じる。

競争力を高めた新製品を予定通り市場投入

- ビジネスインクジェットプリンター18機種
- 小型インクジェットプリンター
- 大容量インクタンクプリンターの販売地域拡大
- ビジネス&ホームプロジェクターのラインアップ拡大
- ビジネスシステム(SIDM & TM)のラインアップ拡大

進捗と対応

- ラインアップを揃えることで、欧米市場で競争激化
⇒ 予定数量確保のために、相応の販売投資
- 震災による部品調達の問題は8月にクリア
⇒ 年末商戦に向け新製品数量確保のため、航空便で送品対応

進捗と対応策を業績予想に反映、
基本戦略が確実に進捗、下期・来期以降への着実な足掛かり

6

■ 2011年度業績のポイント

- 年度末に向けた競争力を高めた新製品は予定通り市場投入できている。
 - ✓ ビジネス向けインクジェットプリンターを全世界で18機種
 - ✓ 従来モデルから大幅に小型化したインクジェットプリンター
 - ✓ エマージング向けの大容量インクタンクプリンターの販売を今期中に29の国と地域に拡大
 - ✓ プロジェクターのラインアップ拡大
 - ✓ ビジネスシステムでもラインアップを拡大
- 進捗状況は、
 - ✓ ラインナップを揃えることで欧米で競争激化。
予定数量を確保するために、相応の販売投資を実施。
 - ✓ 震災による、インクジェットプリンターの部品調達の問題は8月にクリア、
年末商戦に数量を確保するために航空便で送品対応。
- 以上については、進捗と対応策を、今回の業績予想に織り込み済み、
- エプソンの基本的な取り組みは確実に進捗。
下期から来期以降にかけての、着実な足掛かりができています。

情報関連機器事業

■ インクジェットプリンター事業

- 今期新製品は市場から高い評価
- 期初計画の数量を販売し、
2012年度以降の更なる販売数量拡大に結びつける



ビジネスインクジェットプリンター
PX-B750F



小型インクジェットプリンター
Stylus NX430
(北米モデル)

■ プロジェクター事業

- 欧米教育需要の伸びは鈍化しているものの、
エマージング地域での需要が拡大
- 新製品投入により、ラインアップが大幅に拡充
- シェアNO.1ならではの強みを活かして
期初計画の数量を販売、更なるシェアの獲得



オフィス向け標準プロジェクター
EB-W12



ホーム向け3Dプロジェクター
EH-TW8000W

7

■ 下期の取り組み

➢ インクジェットプリンター

- ✓ 今期市場に投入した新製品は、ビジネス用、小型モデル、
ともに、市場から高い評価をいただいております、手応えを感じている。
- ✓ この下期は、期初計画の年間1,500万台の販売を、達成するとともに、
2012年度以降の、更なる販売数量の拡大に結びつける。

➢ プロジェクター

- ✓ 欧米では、政府支出の削減の影響により、
教育向け需要の伸びが鈍化している一方で、
エマージング地域での需要は、拡大。
- ✓ 下期に向け、従来以上にコスト競争力を付けた製品を市場投入し、
欧米はもちろん、エマージング地域でも競合に充分対抗できる見込み。
- ✓ 加えて、ホーム向けの3Dの製品も投入。
- ✓ 全てのジャンルで製品を揃え、価格、サービスサポートなど、
あらゆる面で No. 1戦略を推し進め、期初予定した数量の販売を達成する。

デバイス精密機器事業

■ マイクロデバイス事業(水晶デバイス、半導体)

- 震災影響、景気減速、円高進行による業績回復の遅れ
- 収益改善への取り組みを加速
 - ① 国内水晶部品組み立て工程の海外拠点への移管
 - ② 情報関連機器事業の重点領域への要員転換
 - ③ 半導体工場の酒田事業所への集約
 - ④ 水晶デバイスにおける、半導体技術の徹底活用
 - 水晶デバイス用半導体の内製化促進
 - 組み立て/パッケージ技術の徹底活用

8

■ 下期の取り組み

➤ マイクロデバイス事業

- ✓ マイクロデバイス事業は販売面において震災の影響や、景気減速による数量減少とともに、円高の影響で、業績の回復に遅れ。
- ✓ 下期は、引き続き収益改善への取り組みを加速させ、来期以降の事業建て直しに向けた体制を、しっかりと整える。
 - 国内水晶部品組み立て工程の海外拠点への移管
 - 情報関連機器事業の重点領域への要員転換
 - 半導体工場の酒田事業所への中期計画どおり、年度内に集約
 - 水晶デバイスにおける、半導体技術の徹底活用
 - ⇒ 水晶デバイス用半導体の内製化促進
 - ⇒ 組み立て/パッケージ技術の徹底活用

コアとなる強みに集中してお客様を広げる



9

■長期ビジョン「SE15」で目指す成長モデル

SE15で目指す姿、成長モデルについて

- ✓ 省・小・精の技術を基盤として
 - ✓ マイクロピエゾ、3LCD、QMEMSなどのコアとなる強みに集中し、
 - ✓ プリンティング、プロジェクション、センシングの領域でレバレッジをかけて、
 - ✓ 先進国だけでなくエマージングの市場において
 - ✓ ホーム、ビジネス、商業・産業の領域で、お客様を広げることにより
 - ✓ エプソンの継続的な成長を果たすこと
- 先日の情報関連機器事業戦略説明会でご説明したように、実績面でも着実に成果が出てきている。
- 戦略の方向には自信を持っており、取り組みについて変更はない。
- 現在、SE15 後期中期経営計画の策定を進めており、来年3月に発表を予定。

1. 概要

2. 詳細

1) 2011年度 第2四半期決算

2) 2011年度 業績予想

決算ハイライト（第2四半期決算）



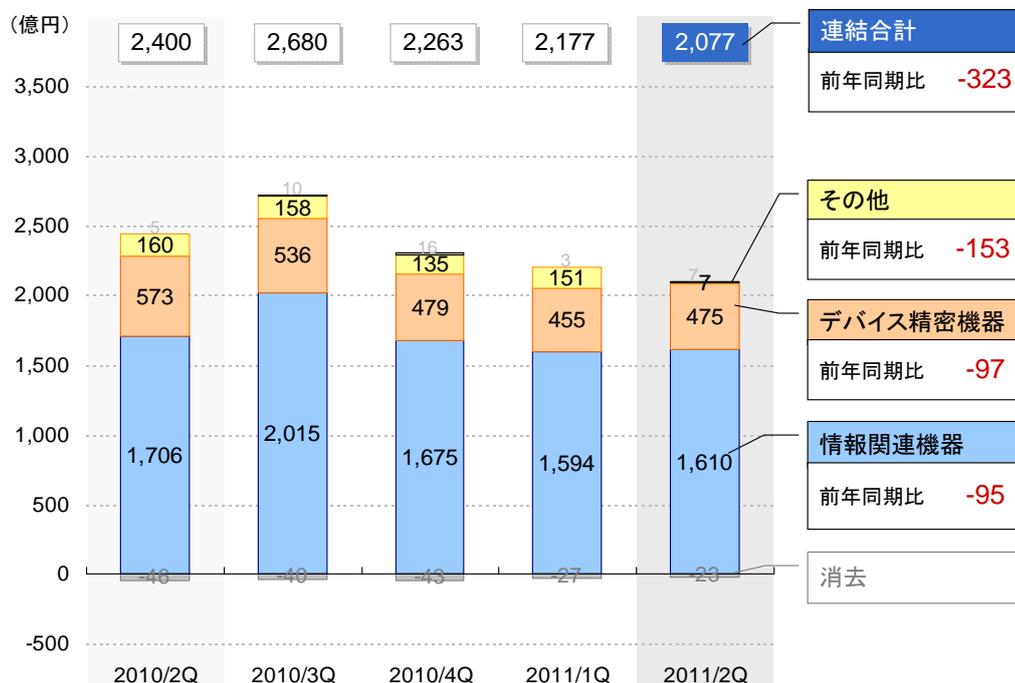
| (億円) | 2010年度 | | 2011年度 | | 増減 | |
|-----------|--------|---------|---------|-------|------|--------|
| | 2Q実績 | % | 2Q実績 | % | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 2,400 | - | 2,077 | - | -323 | -13.5% |
| 営業利益 | 39 | 1.6% | 31 | 1.5% | -7 | -19.9% |
| 経常利益 | 36 | 1.5% | 37 | 1.8% | +1 | +3.1% |
| 税引前利益 | 27 | 1.1% | △4 | -0.2% | -31 | - |
| 四半期純利益 | △4 | -0.2% | △11 | -0.6% | -6 | - |
| EPS | △2.43円 | | △5.75円 | | | |
| 換算 レート | USD | 85.90円 | 77.89円 | | | |
| | EUR | 110.70円 | 110.19円 | | | |

12

■ 2011年度 第2四半期の決算ハイライト

- 売上高は、前期比 323億円減収の 2,077億円、
営業利益は、前年並みの 31億円、
四半期純損失が 11億円。
- 当第2四半期において、東日本大震災の影響として
売上高 約 116億円、営業利益 約 45億円のマイナス影響。
前年同期比での円高によるマイナス影響は、売上高 約 67億円、
営業利益 約15億円。

四半期売上高推移 ▶ 事業セグメント別

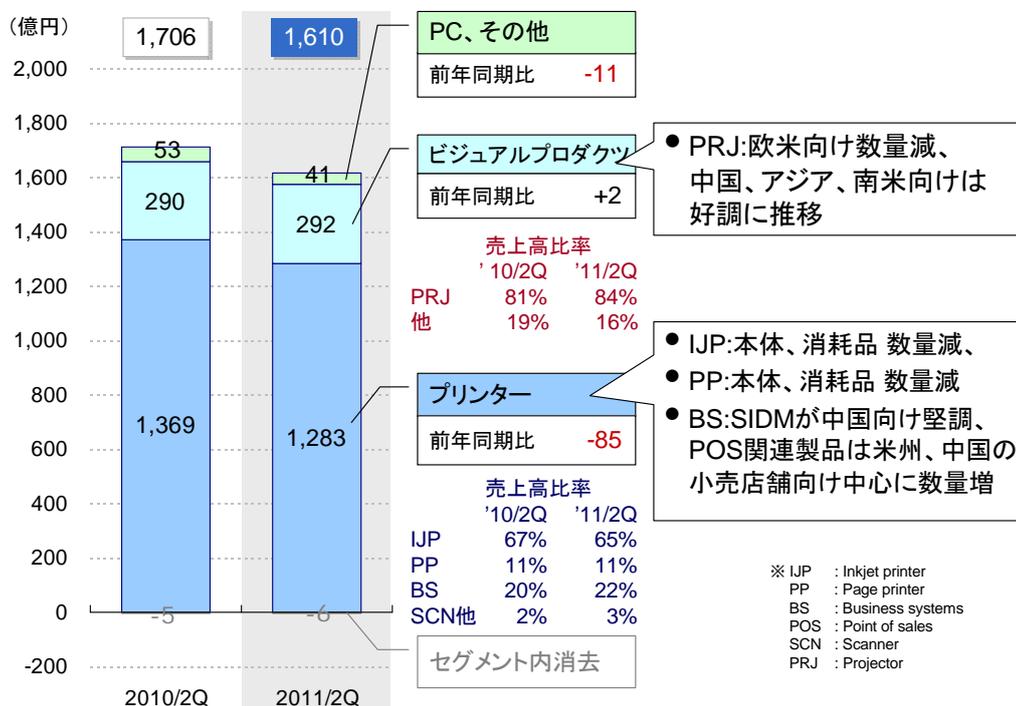


13

■ 事業セグメント別の 四半期 売上高推移

- 情報関連機器 は前年同期比 95億円の 減収、
デバイス精密機器 は 前年同期比 97億円の 減収。
- その他事業の減収は中・小型液晶ディスプレイ事業の終結によるもの。

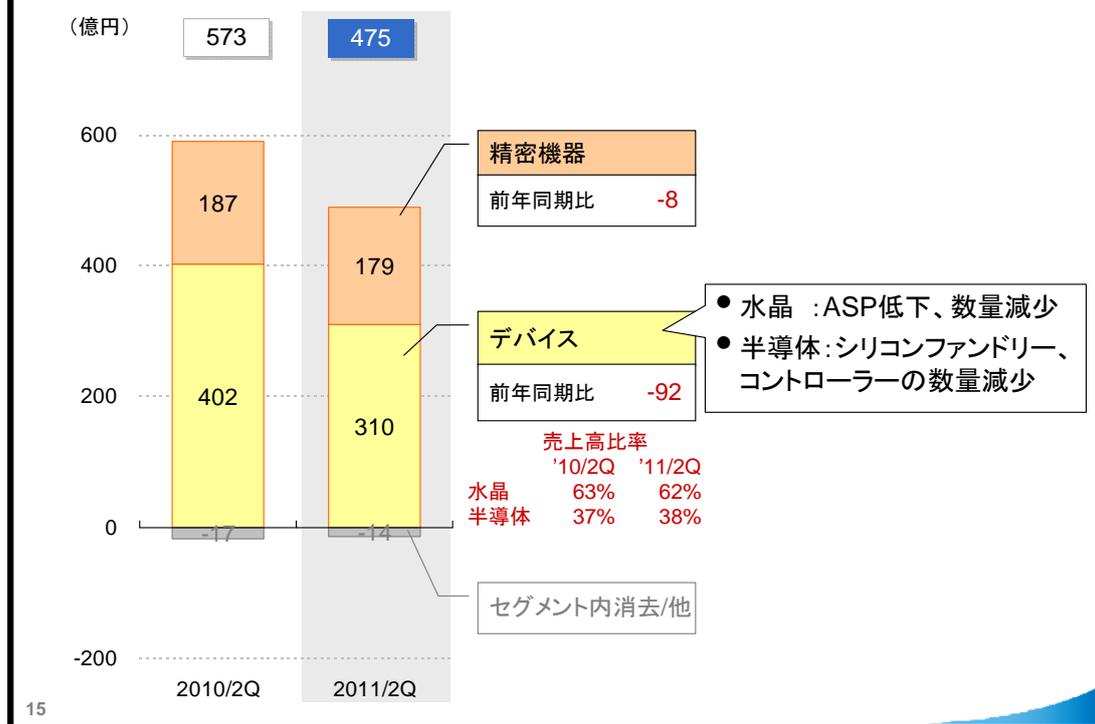
四半期売上高比較 ▶ 情報関連機器セグメント



■ 情報関連機器事業セグメントの第2四半期売上高

- プリンター事業は、85億円の減収。インクジェットプリンターは、本体、消耗品ともに数量減により減収。
- 本体の地域別市場環境については、日本、欧州市場は伸びたものの、米州市場は前年並みの水準。そうした中、当社は日本市場において数量を伸ばしたものの、引き続き震災影響による部品調達の支障から製品の生産・供給に制約があったこと、競合の価格攻勢もあったことから米州、欧州、アジアの海外市場においては数量減。消耗品については日本、米州において徐々に回復してきているものの本体の販売数量減の影響により数量減。
- ページプリンターは、震災影響による製品の供給不足などで本体と消耗品の数量が下回ったことにより減収。
- ビジネスシステムは、SIDMが中国向けの徴税需要を中心に堅調だったこと、POS関連製品が米州、中国の小売店舗向けに販売数量が増加したことにより増収。
- ビジュアルプロダクツは、HTPSの外販は数量減となったものの、当社のプロジェクターが米国や西欧における教育市場向けの減少を中国、アジア市場ならびに南米市場向け販売などでカバーしたことなどにより増収。
- 前回予想との比較について。
- インクジェットプリンターは予想を下回った。本体は、競合の価格攻勢に対抗したプロモーションの効果や年末商戦期に向けた競争力を高めた新製品の投入効果が徐々に出てきたが欧州を中心に予想数量には届かなかった。消耗品も本体数量未達により予想を下回った。
- ビジネスシステムは中国向けのSIDMや、米州・中国向けのPOS関連製品が堅調に推移したが、欧州向けの販売数量が未達となったことにより予想を若干下回った。
- ページプリンターは、ほぼ予想どおりとなった。
- ビジュアルプロダクツはプロジェクターが中国、アジア市場で数量を伸ばしたが、欧米先進国で政府の教育予算削減の影響を受け数量が未達となり予想を下回った。
- セグメント全体では予想を下回った。

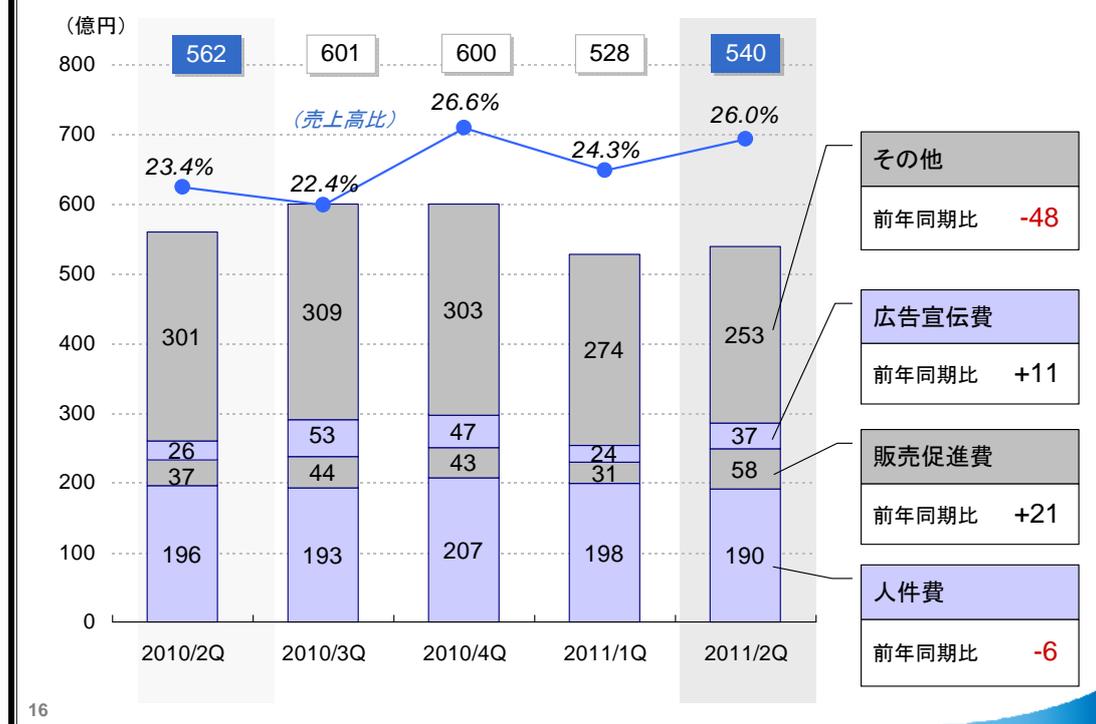
四半期売上高比較 ▶ デバイス精密機器セグメント



■ デバイス精密機器事業セグメントの 前年同期比較

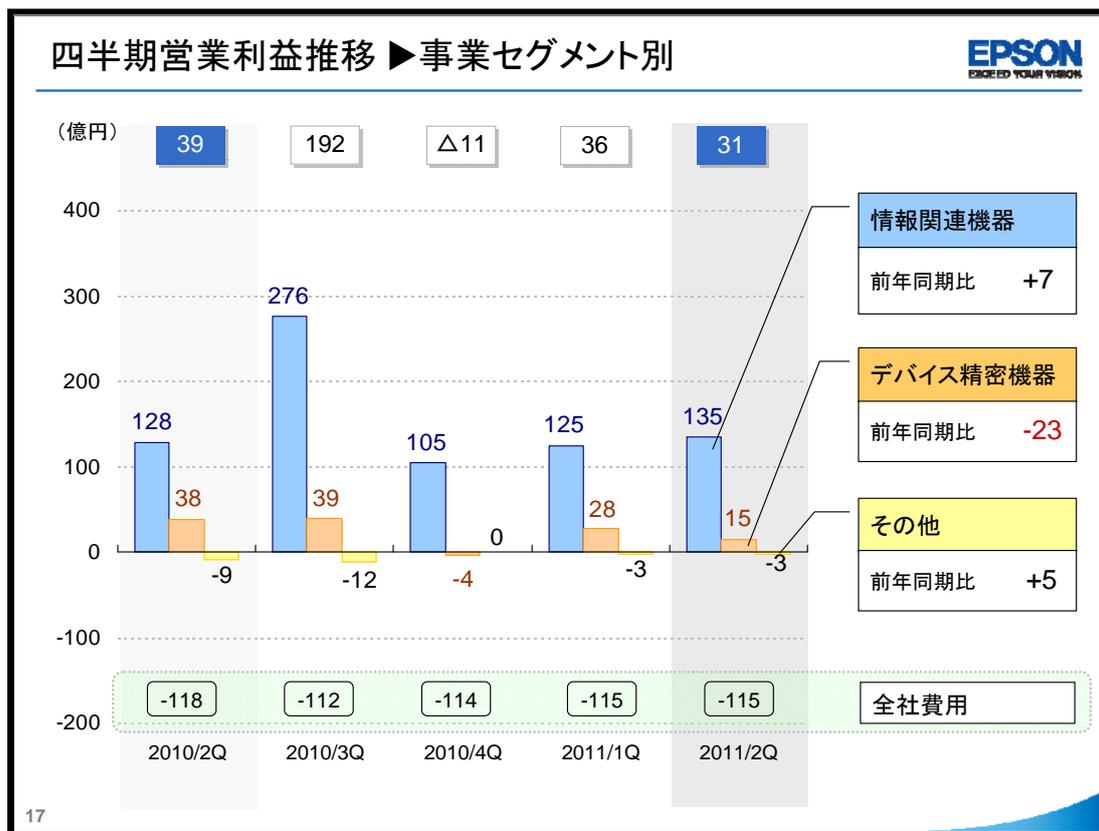
- 水晶デバイスは、ASPの低下ならびに震災の影響による需要の減少により減収。
- 半導体は、シリコンファクトリーの数量が減少したこと、コントローラーの数量減により減収。
- 前回予想との比較について。
- 半導体事業を中心に、想定したほど需要が戻らなかったことにより数量減となり、売上未達。

四半期販売費及び一般管理費推移



■販売費及び一般管理費の四半期推移

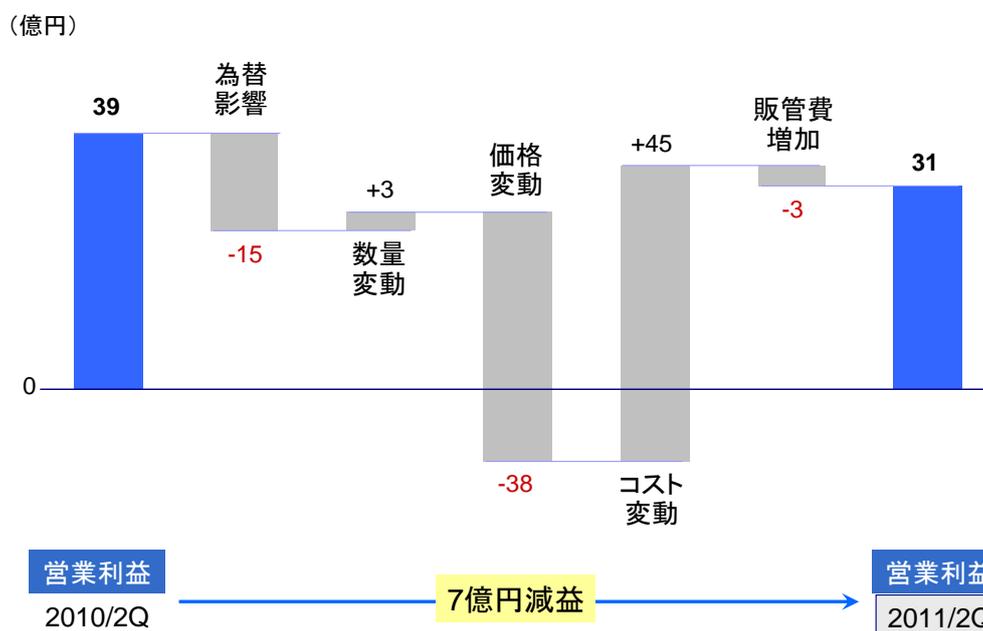
- 販売促進費ならびに広告宣伝費は、年末商戦向けの競争力の高い製品の販売拡大に向け積極的に投入したことにより増加したが、全体としては費用の効率的な執行に努めたことにより前年を下回る金額。



■事業セグメント別の 四半期営業利益推移

- 情報関連機器は、ほぼ前年並みの135億円。
 - インクジェットプリンターは、消耗品の数量減少による減益要因があったものの、コストダウン効果や固定費削減により増益。
 - ビジネスシステム、ページプリンター、ビジュアルプロダクツは、ほぼ前年並みの利益水準。
 - デバイス精密機器は、前年同期比 23億円減益の15億円。
 - 半導体は、減収となったこと、生産稼働率の低下により減益。
 - 水晶デバイスは、減収となったものの費用の効率的執行に努めたことにより前年並みの利益。
-
- 前回予想との比較について。
 - 情報関連機器、デバイス精密機器ともに、予想を下回ったが全社をあげて効率的な費用執行に取り組んだことで会社トータルでは、ほぼ前回予想どおり。
 - 情報関連機器はビジネスシステム、ページプリンター、ビジュアルプロダクツ事業は、ほぼ予想どおりとなったが、インクジェットプリンターにおいて費用の抑制を進めたものの消耗品の売上未達により、前回予想を下回った。
 - デバイス精密機器は、半導体事業を中心に売上が未達となったことで前回予想を下回った。

営業利益増減要因分析



18

■ 営業利益の前年同期比の要因分解

- 2010年度 第2四半期の営業利益 39億円 に対し、コスト変動の増益要因があったものの価格変動などの減益要因があり、当四半期営業利益は 31 億円。

貸借対照表主要項目推移

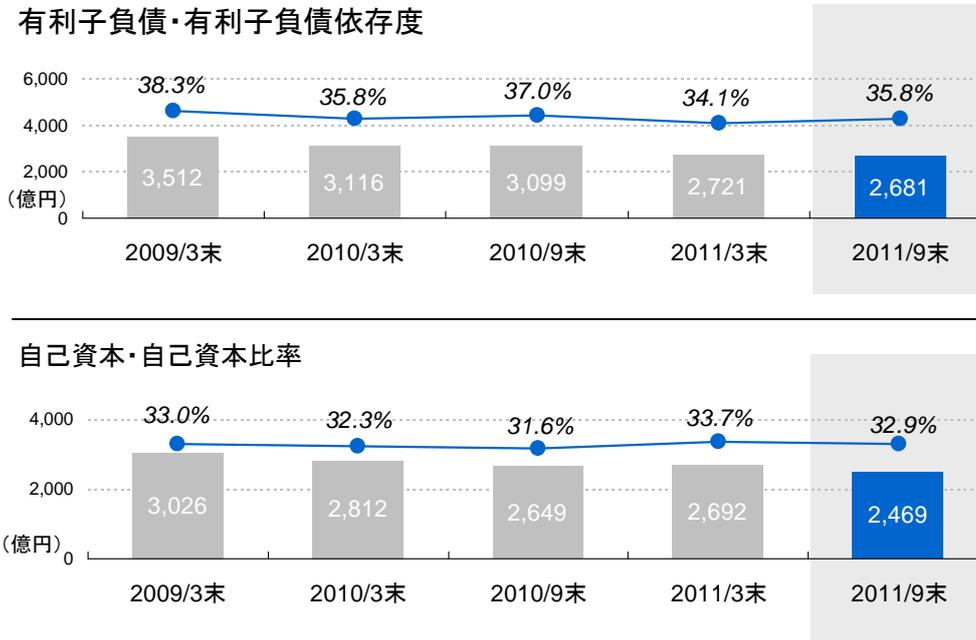


19

■ 貸借対照表の主要科目

- 総資産は、現金及び預金 ならびに受取手形及び売掛金の減少に加え、設備投資の精査、厳選による有形固定資産の減少などにより、前期末に比べ482億円減少。

貸借対照表主要項目推移



*有利子負債:リース負債を含む
*自己資本:純資産合計-少数株主持分

20

■貸借対照表の主要科目

- 有利子負債は、社債発行があった一方、借入金の返済を進めたことにより前期末に比べて40億円減少、総資産の有利子負債依存度は35.8%。
ネット有利子負債は、831億円。
- 自己資本は、上期業績と為替換算の影響などにより、223億円減少し、その結果、自己資本比率は32.9%。

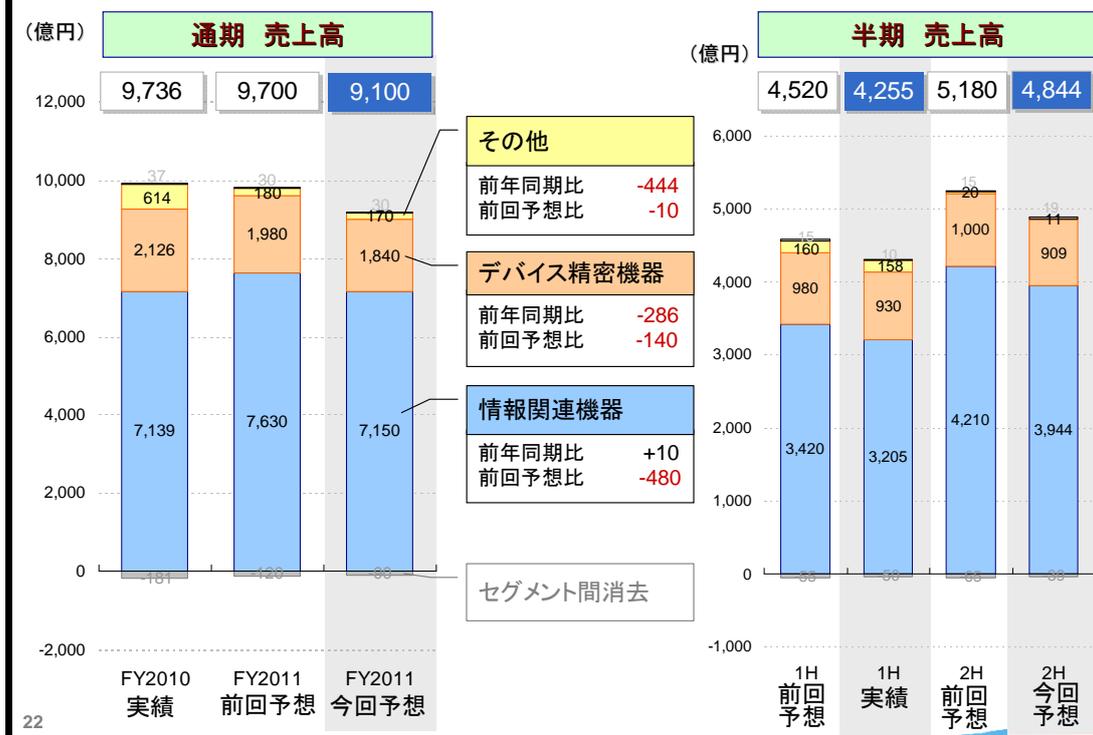
1) 2011年度 第2四半期決算

2) 2011年度 業績予想

21

■2011年度の業績予想

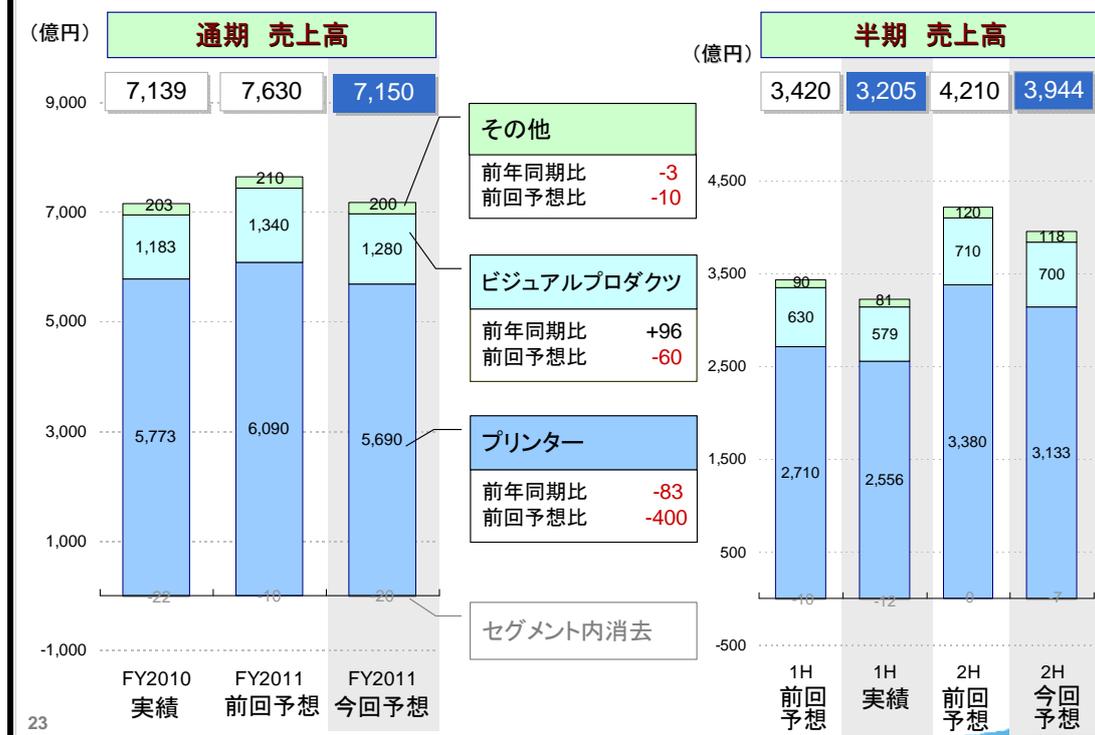
2011年度業績予想(売上高)▶事業セグメント別



■事業セグメント別の、売上高の予想、上期 / 下期別の内訳

- 情報関連機器、デバイス精密機器ともに、下期の売上高予想を修正。

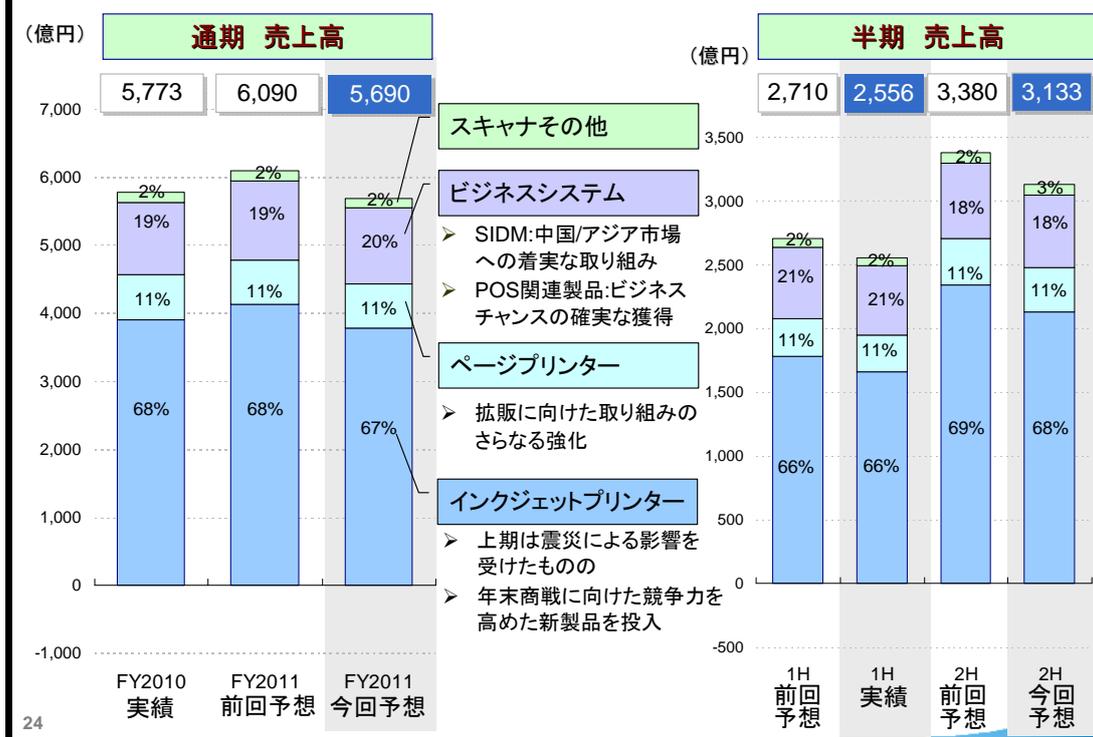
事業別売上高予想 ▶情報関連機器セグメント



■情報関連機器の、売上高の内訳

- ビジュアルプロダクツは、プロジェクターで充実したラインアップでの拡販により、前回予想並みの売上高を見込むが、HTTPSの外販見通しを反映し、下期売上高予想を修正。

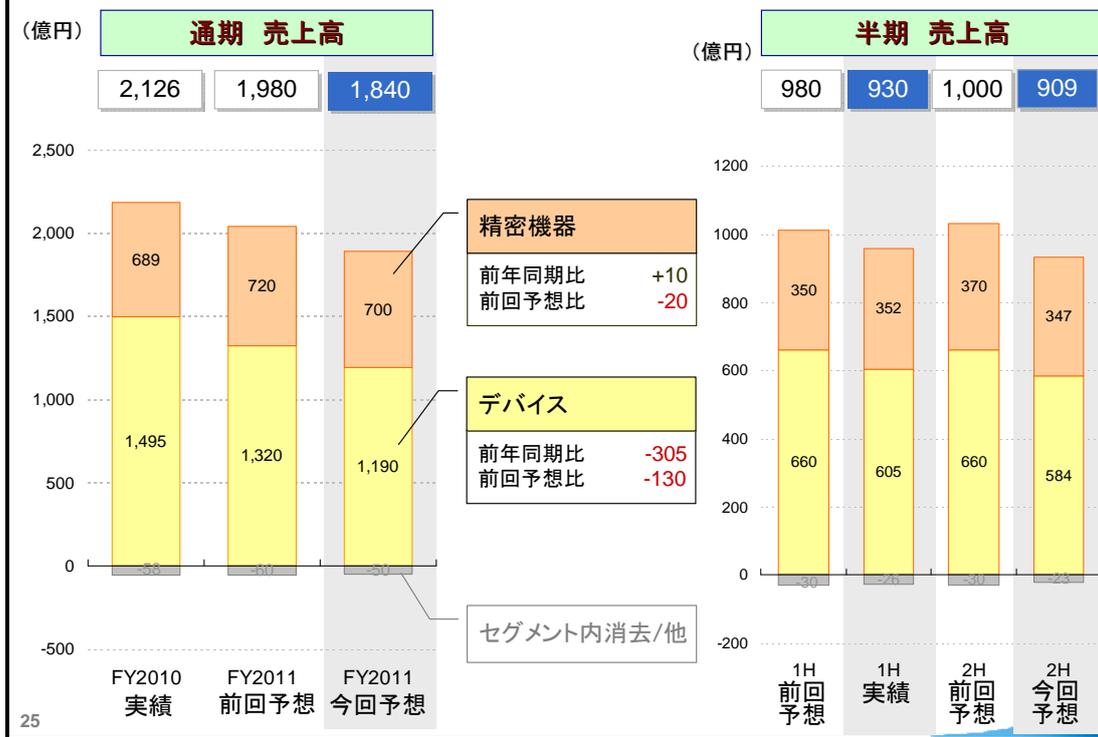
事業別売上高予想 ▶ プリンター事業



■プリンター事業の製品別売上高予想

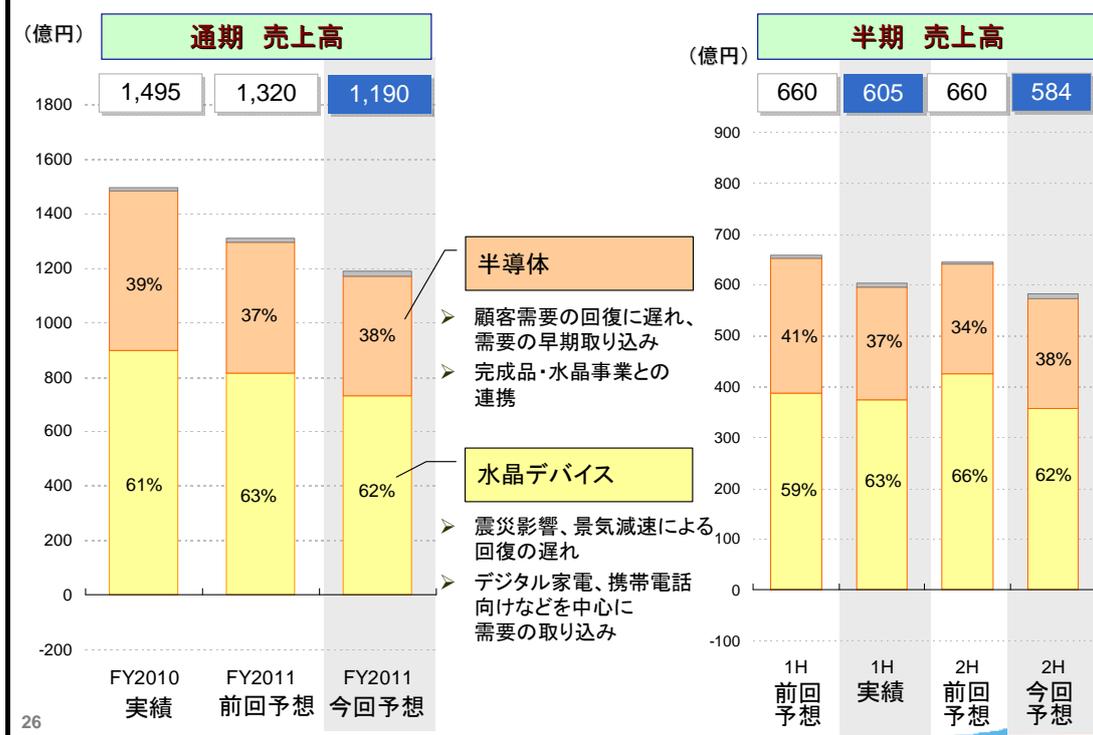
- インクジェットプリンターは、本体では競争力の高い新製品を積極的に販売し期初の目標台数 1,500万台達成に向けて取り組むが、競合状況に応じて柔軟に価格対応を行うことと為替の影響を反映し下期売上高予想を修正。
- ページプリンター、およびビジネスシステムは、下期も堅調に推移する見込み。

事業別売上高予想 ▶ デバイス精密機器セグメント



■ デバイス精密機器セグメントの事業部門別売上高の内訳

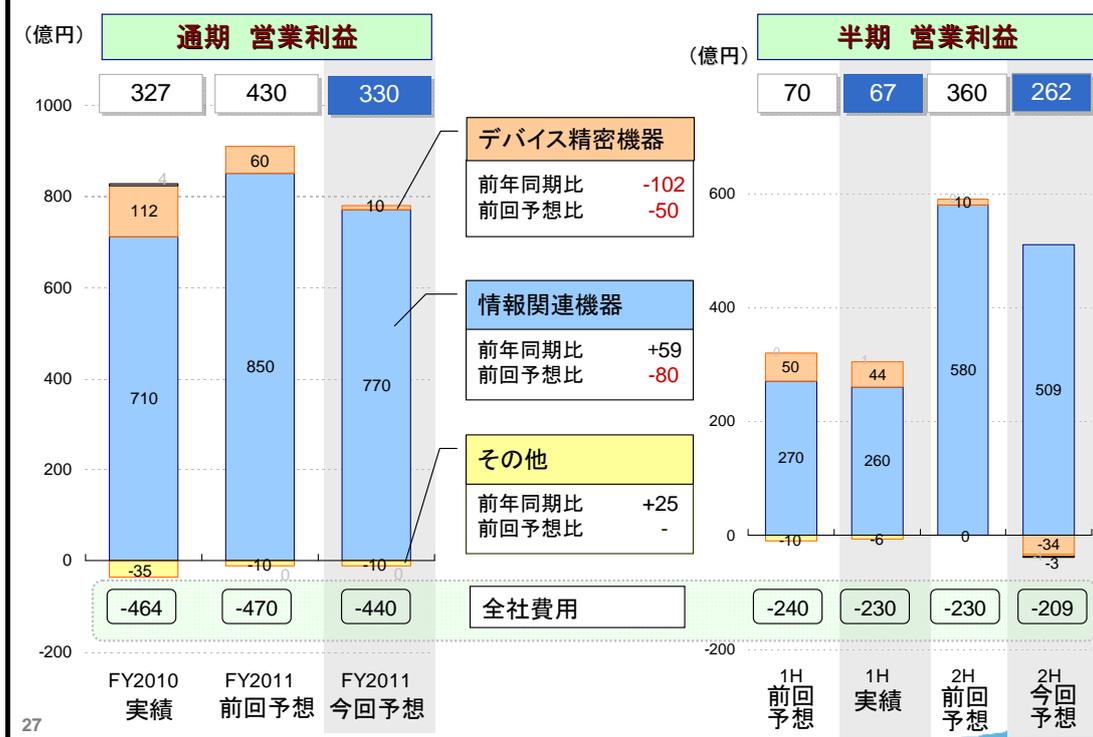
事業別売上高予想 ▶ デバイス事業



■ デバイス事業の製品別売上高予想

- 半導体は下期予想に変更ないが、水晶デバイスでは震災や景気減速の影響による需要回復の遅れと為替の影響を勘案し下期売上高予想を修正。

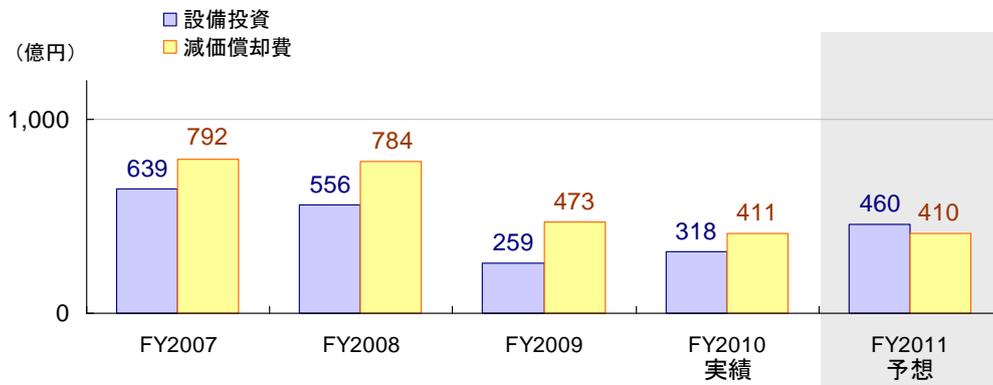
2011年度業績予想(営業利益)▶事業セグメント別



■ 営業利益の事業セグメント別予想と、上期/下期別の内訳

- 情報関連機器、デバイス精密機器ともに下期予想を修正。
- 情報関連機器は、売上高の修正にともなう利益影響に加え円高による為替影響を織り込む。
- インクジェットプリンターにおいて、物流コストの増加を見込むとともに、競合のプロモーションにも柔軟に対応していくことを前提に必要な販売投資を織り込む。
- デバイス精密機器は水晶デバイスにおいて、売上高の修正に伴う利益影響を織り込む。

設備投資・減価償却費予想



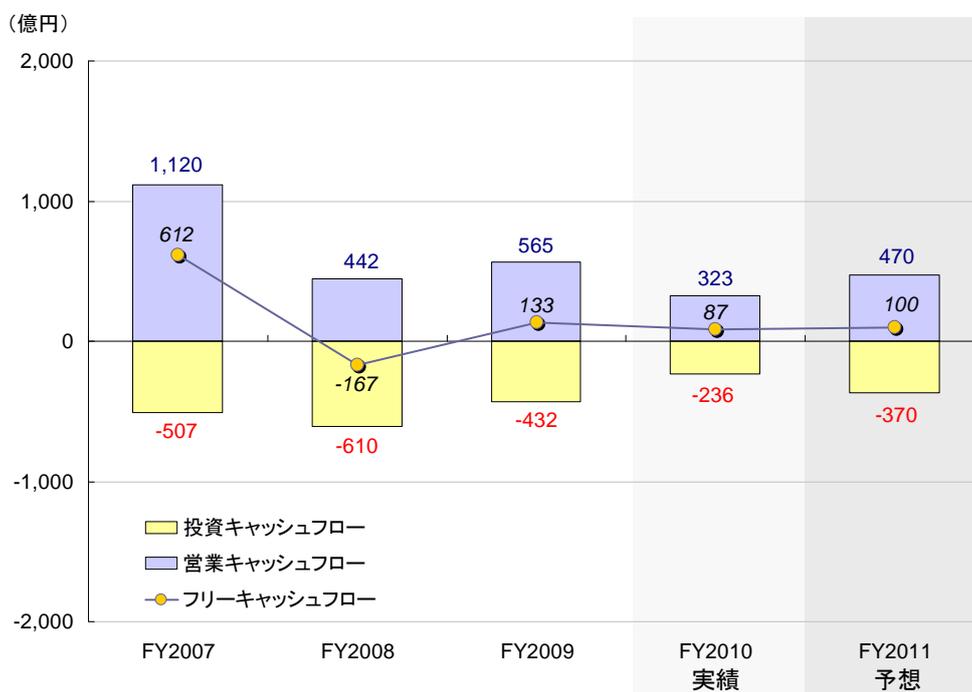
| <セグメント別内訳> | FY2010実績 | | FY2011予想 | |
|------------|----------|-------|----------|-------|
| | 設備投資 | 減価償却費 | 設備投資 | 減価償却費 |
| 情報関連機器 | 186 | 245 | 310 | 250 |
| デバイス精密機器 | 102 | 101 | 90 | 110 |
| その他・調整額 | 29 | 63 | 60 | 50 |

28

■ 設備投資と減価償却費

- 設備投資は460億円、減価償却費は410億円に見直し。

フリーキャッシュフロー予想

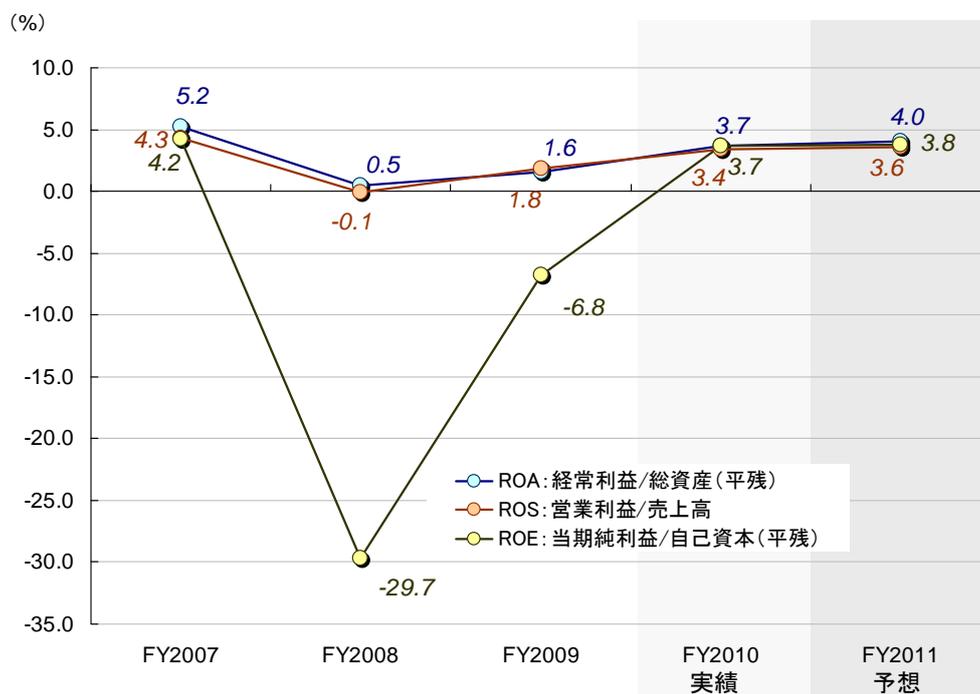


29

■ キャッシュフロー

- フリーキャッシュフローの予想を100億円に見直し。

主な経営指標の推移



30

■主な経営指標

ROSは 3.6 %、(営業利益率)

ROAは 4.0 %

ROEは 3.8 %

EPSON
EXCEED YOUR VISION